

主な出来事

【内政】

- 新野党連合UDCが誕生
- ンカテ前駐日大使, マシシ副大統領と協力
- ボツワナ南部で洪水被害

【外政】

- ベンソン=モイトイ外務大臣, 国民からの応援に謝意
- ザンビア大統領の訪問
- 日本が草の根無償資金協力で小学校教室棟を供与

【経済】

- A-Cap Resorce 社, ウラン鉱山操業へ
- 2017/2018年予算案発表

【内政】

・新野党連合UDCが誕生

3日, 野党連合「民主改革のためのアンブレラ」(UDC)を構成する3党(ボツワナ国民戦線(BNF), ボツワナ民主運動党(BMD), ボツワナ人民党(BPP))党首及びボツワナ議会党(BCP)党首は記者会見を行い, BCPを含む新たな野党連合UDCの結成を発表した。BCPが新たに加わったUDCは全野党連合となり, 今後行われる選挙において4党がUDCの旗の下で運動を行う。(4日:ウィークエンド・ポスト紙)

・ンカテ前駐日大使, マシシ副大統領と協力

昨年末に日本から帰国したンカテ前駐日大使が今年7月に行われる与党BDPの党大会で事務局長に立候補することが明らかになった。同氏は, これまで幹事長への関心を示していたが, 今回の決断で, 現幹事長であるマシシ副大統領との協力関係を築くものと見られる。(6日:ウィークエンド・ポスト紙)

・地方自治開発副大臣, 政界引退の意向

ツイレツォ地方自治開発副大臣は, 2019年の総選挙には立候補せず政界を引退するとの意向を示した。同副大臣は約40年に及ぶ政治家としての活動から退き, 今後は社会的弱者のための奉仕活動を行う模様。(10日:ガーディアン紙)

・ボツワナ大学の学生がストライキ

8日, 大学生に対する生活手当の支払いが滞っている問題で, ボツワナ大学の学生がストライキを行った。学生達は集団となって公道に飛び出し, 政府に対する不満を叫び, 一般車両を制止, 石やゴミ箱等を投げつけ, 公共物を燃やすなどした。(9日:メヒ紙)

・ラセサ区補欠選挙, BDPが勝利

モチュディのラセサ区で地方議会議員の補欠選挙が行われ、与党BDP候補のダニエル・モロクウェ氏が勝利を収めた。当初、支持者数で勝る野党連合UDCの支援を背景に野党BCPが優勢と見られていたが、664票対541票でBDPが勝利した。(13日:モニター紙)

・ボツワナ南部で洪水被害

南部アフリカ地域に襲来したサイクロン「ディネオ」等の影響と見られる集中的な豪雨で、ボツワナ南部を中心に各地で洪水が発生。多くの学校が休校となり、家屋や道路の浸水、橋梁の崩壊、鉄道の脱線事故など、多くの被害が発生している。(22日:メヒ紙)

・ハボロネダムの貯水率が100%に到達

豪雨の影響でハボロネダムの貯水率が10年振りに100%に到達した。これによりハボロネ地域で今後約28ヶ月分の給水を賄うことが可能となる。一方で、水公社(WUC)は、危惧されるダムの決壊に備えて災害対策チームを配置すると共にダム周辺の住民に対し警戒を促している。(24日, 27日:デイリー・ニュース紙)

【外政】

・ベンソン=モイトイ外務大臣, 国民からの応援に謝意

第28回AU総会でAUC委員長選に立候補し落選したベンソン=モイトイ外務国際協力大臣は、インタビューに答える形で、同大臣の選挙活動を応援し続けた国民とキャンペーン・チームに対して感謝の意を述べた。また同大臣は、カーマ大統領のAU総会欠席が選挙結果に影響したとの報道内容について否定した。また別途行った記者会見において、国際機関のポストに係る選挙キャンペーンを資金援助するとの政策がボツワナ政府には必要である旨語った。(1日:デイリー・ニュース紙, 15日:メヒ紙)

・ボツワナ, イスラエルからの農業技術支援に期待

ラロツィア農業開発・食料安全保障大臣は、ケダー・イスラエル大使と会談を行い、両国の農業分野におけるMOU締結に向けた取り組みを歓迎した。同大臣は、農作地としては恵まれない地理的環境にあるにも関わらず食料の自給自足を維持するイスラエルから、農業技術を学びたいと語った。(2日:デイリー・ニュース紙)

・ザンビア大統領の訪問

7日、ボツワナ訪問中のルング・ザンビア大統領はカーマ大統領と、カズングラ橋の建築現場を視察した。その際、カーマ大統領は、カズングラ橋建設計画は、ザンビア・ボツワナの二国間関係の緊密化、南部アフリカの統合及び工業化に資するものである旨述べた。ルング大統領は、多くの

野生動物が生息し観光地となっているチョベ地区での鉄道建設(当館注:同橋は道路と鉄道の併用)にかかるボツワナ側の環境と開発の両立への試みに謝意を表した。(8日:デイリー・ニュース紙)

・新スウェーデン大使の信任状の捧呈

9日, ジュリン新スウェーデン大使(当館注:南ア常駐)はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。同大使は, インタビューに対し, 両国は再生可能エネルギーや大気汚染などの分野において互いに協力できると語った他, カーマ大統領と環境保全や密猟対策に関する支援についても協議したと述べた。(10日:デイリー・ニュース紙)

・新UN常駐調整官兼UNDP常駐代表, 新チャド大使の信任状捧呈

13日, バリンズ新UN常駐調整官兼UNDP常駐代表及びサキン新チャド大使(当館注:南ア常駐)はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し, バリンズ調整官は, 国連はボツワナの持続可能な開発を支援すると述べ, またサキン大使は, ボツワナはグッド・ガバナンス, 民主主義, 男女平等の良い見本だと語った。(14日:デイリー・ニュース紙)

・新ブルキナ・ファソ大使, 新キプロス高等弁務官が信任状を捧呈

20日, サウドゴ新ブルキナ・ファソ大使(当館注:南ア常駐)及びイアコボウ新キプロス大使(当館注:南ア常駐)はカーマ大統領を往訪し信任状を捧呈した。インタビューに対し, サウドゴ大使は, 観光と水保全について協力関係を築きたいと語り, イアコボウ大使は, 観光, 文化, 芸術の分野で協力していきたいと語った。(21日:デイリー・ニュース紙)

・日本が小学校教室棟を供与

日本国大使館が草の根無償資金協力「クウェネン地区セラメン小学校教室棟建設計画」の引渡式を実施, ゴヤ基礎教育副大臣が出席した。尾西日本国大使は, 同式典において, ボツワナ政府の教育に対する熱心な取り組みにより, 初等教育へのアクセスが大きく改善され, 独立以降50年間の同国の成長に繋がったとしつつ, 今回の日本政府による教室棟建設支援は, 同国における基礎教育の質の向上に寄与すると語った。(21日:メヒ紙)

【経済】

・ボツワナの主要経済指標

1) 経済成長率

2016年第3四半期の経済成長率は, 前期比マイナス0.8%(同年第2四半期の経済成長率は, 前期比0.0%)。

2)インフレ率

2017年1月は3.1%(2016年12月は3.0%)。

3)為替レート(出典:First National Bank of Botswana)

2017年2月28日	2017年1月31日
1プラ=0.094米ドル	1プラ=0.092米ドル
1プラ=1.208南ア・ランド	1プラ=1.236南ア・ランド
1プラ=10.63円	1プラ=10.58円

・ダイヤモンド産業

1)2016年デブスワナ社のダイヤモンド生産量は横ばい

デブスワナ社(ボツワナ政府とデビアス社との合弁会社)の2016年におけるダイヤモンド生産量は前年の生産量からわずかに1%上昇し、2050万カラットとなった。総生産量の内、1190万カラットをジュワネン鉱山から産出している。2016年はダイヤモンド市場が停滞していたことから同社は生産量を前年の水準に維持した。(1日:メヒ紙)

2)ガゴー鉱山閉鎖で250人以上が失業

ジェム・ダイヤモンド社(英)は、ボツワナ・カラハリ自然保護区内に位置するガゴー鉱山で産出されるダイヤモンド価格の下落やインドで行われた通貨切り上げの影響で同鉱山運営に係る収支が赤字となり、鉱山のメンテナンスを行う30~40名以外の労働者250名以上を解雇し、二年間にわたり、同鉱山を閉鎖する。同鉱山で産出されるのと同種のダイヤモンドは近年カナダやレソトなどの鉱山から産出されており、今後それら同種のダイヤモンドの供給が増加すると予測されている。(17日:メヒ紙)

・エネルギー・資源

1)Shumba 社、モルプレ南石炭プロジェクトの75%を取得

Shumba Energy 社は、Hodge Resource 社(豪)との間でモルプレ南石炭プロジェクトの75%取得を内容とする140万ドル以上の契約を締結した。同プロジェクトでは良質な石炭資源12億トンを鉄道で運搬し、短期間で生産過程まで持って行くことが可能であり、Shumba Energy 社は国内及び周辺国市場の恩恵を受けることができる。(5日:サンデー・スタンダード紙)

2)ボツワナ鉱業会議所、カナダの鉱業イニシアティブを採用

ボツワナ鉱業会議所(BCM)は、カナダ鉱業協会(MAC)が展開する持続的な鉱業イニシアティブ(TSM: Towards Sustainable Mining Initiative)を採用すると発表した。TSMは鉱業における環境及び社会的な貢献を改善するためのイニシアティブであり、アフリカで採用されるのは初めてと

なる。(17日:メヒ紙)

3) Metal Tiger 社, 新たな鉱床を発見

Metal Tiger 社(英)は, 当国カラハリ・カッパーベルトの合併プロジェクトにおいて新たな鉱床を発見したと発表した。新たな鉱床は既に発見されていた「T3 鉱床」(52メートル, 銅2%, 銀32g/t)の下に位置し, 75メートル以上の鉱床で, 硫化銅の複数の層で構成されており, 詳しい成分については現在調査中。(25日:ウィークエンド・ポスト紙)

4) A-Cap Resorce 社, ウラン鉱山操業へ

A-Cap Resorce 社(豪)は, 当国セントラル地区においてウラン鉱山の操業及び試験的なウラン鉱石加工工場設立に向けて準備を進めている。同社は今後18年間にわたるウラン販売により, 340億プラの売り上げが見込めるとしている。(4日:ウィークエンド・ポスト紙, 28日:ボツワナ・ガゼット紙)

・2017/2018年予算案発表

6日, マタンボ財務・経済開発大臣は2017/2018年予算案を発表した。政府歳入は571.9億プラ, 政府歳出は595.4億プラとなっている。2017/2018年度は, NDP11(第11次国家開発計画)実施の初年度であり, 政府はNDP11の重点分野を中心に政策を実施する。(7日:デイリー・ニュース紙, メヒ紙他)

・ボツワナ航空の民営化に係る公募

14日, 政府は国営企業であるボツワナ航空の民営化への関心表明(EOI: Express of Interest)の公募を開始した。関心表明に係る公募では買収, 合併, フランチャイズ, パートナーシップ等の様々な形態における提案書を受け付けるとされており, 提案書の締め切りは2月28日となっている。(14日:メヒ紙, 15日:デイリー・ニュース紙)

・金融政策声明の発表

27日, ペラエロ・ボツワナ銀行(中央銀行)総裁は, 金融政策声明を発表した。同総裁は声明の中で2016年の経済動向及び金融政策を振り返るとともに, 2017年のインフレ率等の経済動向に係る見通し及び同行の方針等について表明した。(28日:メヒ紙)

【文化】

・日本人柔道オリンピック金メダリストがボツワナに来訪

リオ・オリンピック柔道金メダリストの田知本遙選手が来週ボツワナを訪問予定。日本政府の支援で建設され「井坪先生記念道場」と命名された柔道道場のこけら落としに参加する。(24日:ガーディアン紙)